立志に遅すぎるということはない

広島大学長　田中隆荘

今年3月31日をもって本学から退職される教職員が66名になります。退職の皆さんには，長期にわたってそれぞれの立場から本学を支えていただいたことを思い，惜別の情をもって挨拶を申し上げます。皆さんの御功労に対して，こころからお礼を申し上げ，併せて，めでたく退職を迎えられたことを衷心よりお祝い致します。

皆さんは，初任が本学の前身校であった方，転任によって本学が最終となった方，また本学に初任からひきつづいて在職された方などでありますが，多くの方は大学が，さきの大戦後の再建に明け暮れた頃からの御勤務であります。全国どこでも大学は，統合によるひずみが随所に現れ，研究も教育も，大学といわれるにはほど遠いものがあった状況でありました。どの大学も，新制度でスタートしたばかりで，学問の自由と大学の自治の理想と希望に燃える傍ら，理念と論理への不安と危惧が交錯し，手さぐりで職務を果たさねばならないことが多々あったのであります。やがて学内には，学生にも焦慮と危機感が蓄積し，その解決にはどの大学も，多大の努力が費やされる結果となりました。皆さんはこのとき先頭に立って，また中堅として直接の苦労をされたのであります。様々な問題に対し，長期間にわたって忍耐強く解決に努力していただき，地味な一つひとつに専心取り組み，適確に処理していただいたのであります。この努力によって，今日の発展する我が国の学術と大学をみるに至ったのであります。

本学は，統合移転を契機として，様相が大きく変わろうとしております。研究と教育によって，学術の高度化と多様化，基幹大学としての責務，地域に対する貢献，人類の未来と世界的国際化に対する責務の実行であります。このとき，熟達された皆さんを送り出さねばならないことは，まことに残念でございます。しかし皆さんの御努力の姿は，長く本学と我が国文教の中に残るのであります。どうか退職されてからも，前広島大学教職員という先輩として，本学を見守り，自由な立場から，本学に対する愛学の情報を送っていただくことをお願い申し上げます。

誰でも退職後は，世の中が変わったように心の状態がフレッシュになるといいます。陽の光がいつもより明るく，路傍の小草が緑濃く美しく見えるといいます。仕事をやり遂げて，気力も頭も新鮮で若返っている証拠と考えます。この，気分が一新しているときに，新しい志を抱いてみたいものであります。第二の人生のスタートですから，全々畑違いのこと，生来の願望だったこと，あるいはボランティア活動など，そのいずれでも大切なのは，自分の個性を生かすことでありましょう。この個性とは，好きなことでいまの自分にできることであります。個性を生かして園芸で，喜寿を越えて今なお日々チャレンジに燃えている人を存じております。その人はその20年を，季節にさからわず，四季それぞれに融和し，自然と一緒に行動し，自然から学んで，泰然とした第二の人生を歩んでいるのであります。

志を立てるのに遅すぎるということはありません。どうぞ，末永く健康で，新しい志に向かって，すばらしい第二の人生も成功されることを念じて，送別の挨拶といたします。